様式第２号

視察研修先	千葉県君津市	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	君津市商工・観光アクションプランについて		

１．千葉県の製造品出荷額は１２．５兆円でそのうち君津市は７，０００億円を占め、県内市町村で４番目となっている。課題は用地不足だ。

２．令和７年の産業支援センターへの相談件数は２０７件であった。

３．市庁舎１階にある君津版ハローワーク管理業への問い合わせは９３件の２，７１０人におよんだ。

４．同アクションプランは基本計画をより具体化したものであり、行政外取組と予算化されていない取組をも含んでいる。

５．観光入込客数の目標は２７５万人。現状は２００万人余りなり。通過点でなく目的地に選ばれるまちそのものの魅力ある取組が望まれる。

様式第２号

視察研修先	千葉県南房総市	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	道の駅を拠点とした観光振興について		

１．南房総市は２０年前の６町１村の合併でできた人口３．３万人のまちであり、一次産業が２０．５％もあり、５人に１人が農林・漁業従事である。

２．南房総市は東京より１００ｋｍに位置し、千葉県内には２９の道の駅があり、そのうち８駅を有し県内一である。

３．年産５００～６００トンの枇杷は３割が規格外になるデリケートな果物。その規格外をも活かしオリジナルな商品開発を通して、６次産業化を推進し、農家の所得向上をも目指す。

４．令和２年策定の「南房総市道の駅再生基本計画」に基づき、指定管理者の第３セクターとし、地元住民の日常的買い物が可能なところとして機能している。

５．資源小国日本のために市内６ヶ所の道の駅にＥＶ用充電設備を整備。

様式第２号

視察研修先	千葉県鋸南町	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	都市交流施設・道の駅 保田小学校について		

１．鋸南町は平成の大合併時は自立を選択。人口６，５００人、高齢化５０％の菜の花が取り柄のまち。

２．農水省の交付金を活用し、モノよりコトを重視の勝負で、職員８０人体制で年間１０億円の売上を計上。

３．過疎債の９億円は全額施設整備につぎ込んだ。

４．食・遊・買い物（体育館）・学・憩の５拍子揃ったワンダーランド。

様式第２号

視察研修先	千葉県市原市	氏名	荒木 春吉
視察研修項目	リノベーションまちづくりについて		

１．市原市は人口２６．４万人で県内一の広さを誇り、プラスチック原料生産の石油コンビナートのまち。

２．主体はあくまで民間主導を貫く。行政は支援。

３．財源は一般財源。

４．プロモーション支援は伴走型支援として重要。

５．全体図として、委託している塾・勉強会・相談窓口等があり、直営の勉強会もある。

６．本市に導入の際は、既存団体との関係構築をし、方向性一致が大事。